

いのちと健康を守る活動

母子保健研修、鍼灸研修、妊産婦検診、 手工芸品製作と販売…大忙しの PIHS

2012年3月の滞在中、PIHSのふたつの研修に同席しました。ひとつは、主に初めて研修を受ける人向けの母子保健研修(ゼネラルサントス市内のPIHS事務所で開催、3日間)。もうひとつは、以前、鍼灸研修を受けた人向けのスキルアップ研修(ティナガカン村で開催)です。



最年長参加者のサリパ・コロネルさん、1943年生まれの69歳。伝統的産婆の知識を披露してくれた

母子保健研修には、トゥヤン村4名、バロンギス村5名、ルポケン村3名、ティナガカン村1名、シギル村2名の計15名が参加しました。内、それぞれが居住する村で研修を受けたことはあるけれど市内での研修は初めての女性が7名、伝統的産婆3名、ユース2名と12歳から69歳まで幅広い層が集まりました。3日間のコースは講師も多岐に渡っています。PIHS以外から大勢の方がボランティアで講義を行いました。

自己紹介が終わり、最初の講義は植民地期以前の歴史です。「えっそこから?」と正直思いましたが、これも現代のフィリピン人女性が置かれている立場や環境を考えるためです。

女性にとって大事な3つのB(Balay=家、Bata=こ

ども、Bana=夫)の健康をどう守るか、参加者から質問や意見を聞きながら、講義は進みます。伝統的産婆が助産師として今後活動を続けるには自治



シギル村の妊婦の脈を診る PIHS のナプサさん(左)。この女性は2回新生児を亡くしているためこまめに回診している

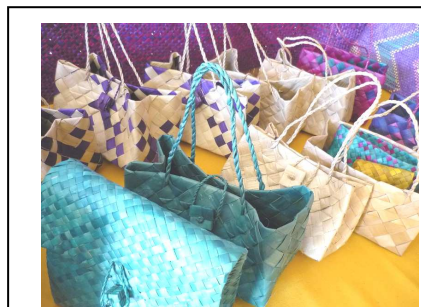
体の免許が必要になります。一定の研修を経て交付されるため、サリパさんも真剣でした。

ティナガカン村では、2008年に行った鍼灸技術のスキルアップ研修です。腕のツボや足のツボの位置と、そこを押すと体のどの部分に効果があるのかおさらいします。ユースを含む10名ほどの出席者がお互いの体をモデルにして、繰り返し実施し、技術を身に付けます。自宅に戻ったら、今度は家族の健康増進のために行うのです。モグサが無くて、医療用のコットンボールとガラスのコップを使って、お灸ができることを学びました。

トゥヤン村には植物の葉から伝統的なマットやバッグを作る女性生産者グループ「MULAN」があります。結成1周年を記念して、新商品のお披露目会を行うことになりました。場所は公立トゥヤン小学校の向かいですので、さまざまな人の目に触れます。当日は伺うことができませんでしたが、飾り付けの様子を見せていただきました。

色とりどりのマットを壁に飾り、バッグを並べます。マニラからの注文のマットの大作もありました。今後は収入向上を図りながら、保健衛生研修を組合員向けに行う予定です。(九島)

(以上は今井記念海外協力基金とWE21ジャパンみどりの助成)



MULANの女性たちが製作するバッグ
フィリピン国内の市場向けです

ジョジョのクリニック報告 12-2月分

* 支援患者数: 55名

風邪・インフルエンザ 35、胃腸疾患 7、歯痛 5、外傷 4、膀胱炎 1 他 (うち入院支援3件)

* 巡回診療:

2/21-23: アトモロック (一般診療213人、歯科26人)

* その他の活動から

12/14: ルタイのハーブ畑手入状況モニター

12/25: 強い頭痛を訴えていた奨学生イレネ、専門医により、瞼上の嚢胞除去手術を勧められる。

1/5: 休学中のエドナの4週間ごとの注射。主治医は6月復学可と診断。1/18-21 カリウム不足の呼吸困難と胃潰瘍でジョジョ入院。その後2週間活動休止。